

平成 29 年度行事予定

平成29年12月と平成30年1月の保存・特別保存審査の受付は休止します

4 月	<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付 (4月3日～5日) 平成29年新作名刀展出品受付(4月3日～5日) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(4月8日) 平成29年新作名刀展審査(中旬) 平成29年新作名刀展表彰式 (4月28日 於講堂) 	10 月	<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付 (10月2日～4日) 第70回刀剣研磨・外装技術発表会出品受付 (10月2日～4日) 同審査会 (10月中旬) 第63回重要刀剣等審査受付(10月10日～12日) 第35回作刀技術実地研修会実施(未定) (下旬 於日刀保日本刀鍛錬道場)
	<ul style="list-style-type: none"> ◆保存・特別保存審査受付は休止 (10月より開始予定) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(5月13日) 理事会・評議員会開催(事業報告及び決算) 玉鋼配布(下旬より) 		<ul style="list-style-type: none"> 第70回刀剣研磨・外装技術刀剣研磨・外装技術発表 会表彰式 (11月中旬) ●保存・特別保存刀剣審査受付(11月6日～8日) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(11月11日)
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(6月10日) 第50回刀剣研磨・外装技術研修会参加受付 (5月31日まで) 第1回伝位審議会 刀職技能訓練講習会実施 (下旬 於備前長船刀剣博物館) 平成29年新作名刀展 致道博物館 (6月14日～7月6日) 	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付は休止 第2回伝位審議会 定例鑑賞会、日本刀鑑賞マナー講座及び協力団 体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出は休み
			<ul style="list-style-type: none"> ◆協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出、 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座休止 (11月より開始予定) 第50回刀剣研磨・外装技術研修会実施 (7月24日～29日 於刀剣博物館)
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(2月10日) 	30 年	<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付 (2月5日～7日) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(2月10日)
			<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付(3月5日～7日) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(3月10日) 理事会(事業計画及び予算) 第3回伝位審議会
7 月	<p>8月、9月は移転のため 業務はすべて休止いたします。</p> <p>平成29年新作名刀展 備前長船刀剣博物館 (8月上旬)</p> <p>川越市立博物館 (9月9日～24日)</p>	1 月	<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付 (2月5日～7日) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(2月10日)
			<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付(3月5日～7日) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(3月10日) 理事会(事業計画及び予算) 第3回伝位審議会
8 月 ・ 9 月	<p>8月、9月は移転のため 業務はすべて休止いたします。</p> <p>平成29年新作名刀展 備前長船刀剣博物館 (8月上旬)</p> <p>川越市立博物館 (9月9日～24日)</p>	2 月	<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付 (2月5日～7日) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(2月10日)
			<ul style="list-style-type: none"> ●保存・特別保存刀装・刀装具審査受付(3月5日～7日) ●協力団体鑑賞会への講師派遣・鑑賞刀貸出実施 定例鑑賞会・日本刀鑑賞マナー講座(3月10日) 理事会(事業計画及び予算) 第3回伝位審議会

行事予定は変更することがあります
資料室は4月より利用休止となります

刀剣博物館 3月の展示

代々木感謝祭

刀剣博物館開館50年にわたる寄贈名品展

日本美術刀剣保存協会は、本間順治、佐藤貫一氏等が中心となって美術工芸品としての日本刀の保存・鑑賞・研究・伝統継承のため昭和23年に設立されました。昭和43年には、ここ代々木に付属施設として刀剣博物館が設置されました。

この度、協会及び刀剣博物館は墨田区に移転することとなりました。代々木の地に開館して約50年、ここで開催する最後の展覧会として当館が所蔵する国宝や重要文化財等の名品を一挙に公開いたします。これらは、当協会や刀剣界を支えてくださった方々の恩寵により当館に寄贈され、活動の基盤となって日本刀の保存・継承・普及に大きく寄与した作品群です。この展覧会ではご寄贈者と共に名品を振り返り、その懇志に厚く感謝申し上げます、併せて刀剣博物館の更なる飛躍を祈念して開催いたします。

期間 1月5日(木)～3月31日(金)

時間 午前10時～午後4時30分(入館は4時まで)

休館日 月曜日(祝日は開館)

入館料 大人六〇〇円 会員・学生三〇〇円 中学生以下無料

〔編集後記〕 協会のたたら操業の季節となりました。日本刀の材料鉄の在り

方については様々な意見があり、古刀期の製鉄炉は現在より遙かに小型のもので、このような形態で製鉄を行ったほうが古名刀に近い作風の刀を造ることが出来るのではないかな等の指摘は昔よりあり、実際に自家製鋼の材料により製作したという古色ある作刀も随分拝見させていただいて来ました。

しかし、平安・鎌倉期の刀匠の多くは社寺・権門勢家等に隷属すると同時に保護を受け、その庇護のもとに作刀したものと想像され、彼ら自身が製鉄を行ってはいない可能性もかなり考えられるものと思います。

元来権力者に隷属していた工匠が、その余剰生産物を市井に売却して徐々に経済的に自立し、ついには独立した手工業者となっていったというのが、日本の手工業の大筋での進化形態と推察されます。

大名の抱え鍛冶でない近世の刀工、また現代の刀匠は、市井の自立した手工業者で、多くはさまで強大ではない資本力をもとに生産を行う必要があり、また交通の発展その他の条件の変化により流通は昔より盛んになって来ています。

ここに、効率よい作刀のため品質の安定した良質の和鉄を量産出来、小型炉よりもコストの低減を期待できる高殿たたらが要求されるわけで、近世以降の刀匠の発展はこのたたらが存在なくては有り得なかつたでしょう。

製鉄形態の相違は刀匠を巡る時代背景も考慮に入れて論ずる必要があるものと思われま

す。(日野原 大)

刀剣美術 第七二二号 三月号

平成二十九年三月五日印刷
平成二十九年三月十日発行

発行者

公益財団法人日本美術刀剣保存協会

〒二五一〇〇五三

東京都渋谷区代々木四丁目二十五番十号

☎〇三―三三七九―二三八六〇八

FAX 〇三―三三七九―一三八九

振替口座〇〇―一〇―三三七八一六

印刷所

東京都新宿区市谷加賀町一―一―一
大日本印刷株式会社